

隣人の大切さ

2020年の私の個人的なテーマは、COVID-19のパンデミックの時期に、他の人、特に私のマンションの隣人を通して自分自身を見ることです。日本とフィリピンのマンションの生活は異なります。そのため、私のユニットに3年間住んでいても、近所の人を誰も知らなかったのは当然のことです。しかし、日本での努力を再現することで、近所の人と出会い、助けていることに気づきました。フィリピンのマンションは日本とどう違うのですか？3年ぶりに近所の人と会うことができた日本の習慣は何だと思いませんか。

マンションの生活は日本とフィリピンではかなり違います。マンションには活発なテナントコミュニティがないため、隣人（同僚、クラスメートなど）と個人的な関係がない限り、お互いを知らないことは珍しくありません。あいさつもさりげなく人気がありません。隣人に引っ越しプレゼントを贈るのが通例である日本とは異なり、フィリピンではマンションの人は隣人をほとんど知りません。しかし、パンデミックの時、日本の例を真似ることで、隣人との絆を築くことができました。

私が真似た日本の例は、近所の人に無料で洗濯をしてあげるというものでした。2011年の東北地方太平洋沖地震の被災者を支援するために、彼らは無料のランドリーサービスを提供しました。仲のいい友人がパンデミックの際に洗濯に困っていたのを聞いて、このアイデアが思い浮かびました。幸運なことに洗濯機を持っていたので、コインランドリーが閉店したときに手洗いに移る必要はありませんでした。洗濯機を近所の人と共有することにしたので、チラシを用意してドアに置きました。

洗濯機を共有することで、パンデミックに不可欠な隣人とのネットワークを構築することができました。最初は、誰も洗濯ポストについて尋ねませんでした。しかし、私はエレベーターの中で人々に話しかけ、私が洗濯機を提供していることを彼らに知らせようと思いました。自分と同じフロアに住んでいる人たちの中で小さなグループを形成することができました。洗濯機の共有から、検疫などの重要な情報の共有も始めました。

私はこれらの経験から、将来的にはより良い関係を築いていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。